

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業（都道府県広域捕獲活動支援事業）鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業及び鳥獣被害防止対策促進支援事業（中山間地域等鳥獣被害防止施設整備事業）の評価報告（令和5年度報告）

愛知県

- 1 被害防止計画の作成数、特徴等
- ・愛知県では37市町村で被害防止計画が作成されている（2024年3月31日現在）。
- ・愛知県の農業生産の特色を反映し、園芸作物における中型獣類及び鳥類による被害が多い。そのため、中山間地域を主体としたイノシシ、ニホンジカ等の対策に加え、全県的に中型獣及び鳥類を対象とした対策が重要である。

- 2 事業効果の発現状況
- 地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。
- ・鳥獣被害防止総合支援事業のうち推進事業においては、いくつかの事業実施主体により農業者が狩猟免許取得者の捕獲活動をサポートする体制の整備が進められている。捕獲器具、野生鳥獣観察用の自動撮影装置などの配備も進んでいる。被害状況及び生息状況調査の推進、地域の対策をリードする人材の確保と育成、地域住民の合意形成と協力体制づくりが引き続き重要な課題である。
- ・同、整備事業においては、イノシシ等大型獣の侵入防止柵の整備が進展し、一定の効果が得られている。保守点検、補修等を行う管理体制の重要性も理解が進み、持続的な効果発現が期待される。
- ・鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業においては、各種の有害鳥獣の捕獲が実施されている。例年、一定の捕獲実績が上がっているが、個体数抑制や農作物被害防止に対する効果の検証が不十分である。今後は持続的な従事者確保に加え、一定の精度を有する効果検証手法の確立と省力的で効果の高い捕獲手法の開発が望まれる。
- ・鳥獣被害防止都道府県活動支援事業においては、農業普及指導センターによる現地指導や研修会等により、農業者の被害防止対策に対する意識、意欲が高まりつつある。農業試験場による技術開発が進められ、現地での体系化を企図した普及指導員による調査研究も実施された。ニホンジカ肉の認知向上と消費拡大を主題としたジビエ利用拡大の取組も着実に進展した。

- 3 被害防止計画の目標達成状況
- 令和5年度を被害防止計画の目標年度とする犬山市、長久手市、西尾市、幸田町、豊川市、田原市において、地域の実情に応じた対策が実施され、長久手市、西尾市、幸田町で目標を達成した。一方で犬山市、豊川市、田原市は目標を達成することが出来なかった。対象鳥獣別、指標別にみると達成状況が不十分な部分が残されるが、地域の課題が浮き彫りになったものと捉えられる。今後の活動において、これらの課題解決に向けた的を射た対策を導入することで、一層の進展が期待される。
- 令和4年度に低調であった瀬戸市、日進市、新城北設（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）について再評価を行った。一部の鳥獣では被害が減少したが、引き続き改善が必要な鳥獣種も残された。今後も継続的に活動し、被害軽減を図る必要がある。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
犬山市鳥獣被害防止総合対策協議会	犬山市	R3	イノシシ	緊急捕獲	215頭				イノシシ捕獲数の増加(R3:215頭→R5:283頭)							目標を達成できた項目は、ヌートリア、ハクビシン、タヌキであり、補助事業を活用した取組を実施した効果が発現されている。アライグマは、被害金額が達成できなかった。イノシシ、ハシブトカラス、ハシボソカラス、ヒヨドリは、被害金額及び面積の項目の目標を達成することはできなかった。カワウは、被害金額及び被害面積がなかった。目標達成に至らなかった理由は、ハシブトカラス、ハシボソカラス、ヒヨドリについては対策が主に生産者任せになっていたため、被害面積・被害金額いずれも増加した。イノシシについては、国費を用いた補助事業を活用した取組を実施した結果、捕獲数を増加させることができたが、イノシシの生息数が減少しないため、被害額が増加している。捕獲従事者の高齢化も問題になっている。目標は達成されていないと評価している。	適切な被害防止の取組を実施するため、被害状況の把握について継続して取り組んで頂きたい。イノシシについては、CSF発生で被害が一時的に減少したが、各地で被害が増加している。特に侵入防止柵の設置・維持・管理は継続して取り組む必要があるため、今後も支援を継続して頂きたい。カラスについては農研機構が開発した「ぐぐれんテグスちゃん」のようにテグス等を使用した侵入防止が効果的であるため、参考として頂きたい。ヒヨドリについては防鳥ネットで囲うことが有効であるが、実施できない場所もあるため、状況に応じて可能な対策を検討・支援して頂きたい。	小型獣を中心に被害金額を抑制できた点は高く評価できる。今後も小型箱わなの充実を図るなどの対策を継続していただきたい。一方、鳥類の被害が急増している。鳥類の対策は難易度が高いが、①生息環境管理、②侵入防止、③捕獲の3本柱を取り組むほかない。不要果樹の伐採や収穫残渣の置き込みの重要性を周知していくとともに、可能な場所では「防鳥ネット」の設置を行い、カラスについてはカラス檻を設置するなどの対策を検討いただきたい。
			タヌキ・ハクビシン・アライグマ・ヌートリア	①有害捕獲 ②緊急捕獲	① 小型獣捕獲用箱わな10基 ② タヌキ 70頭 ハクビシン 8頭 アライグマ 31頭 ヌートリア 4頭				捕獲により生息数の減少したことにより捕獲数が減少した。(R3:113頭→R5:88頭)									
			鳥類	緊急捕獲	カラス 33羽 ヒヨドリ 2羽				個体数の減少									
		R4	イノシシ	①有害捕獲 ②緊急捕獲	① イノシシ捕獲用箱わな1基 ② 266頭				イノシシ捕獲数の増加(R3:215頭→R5:283頭)									
			タヌキ・ハクビシン・アライグマ・ヌートリア	緊急捕獲	タヌキ55頭 ハクビシン20頭 アライグマ29頭 ヌートリア7頭				捕獲により生息数の減少したことにより捕獲数が減少した。(R3:113頭→R5:88頭)									
			鳥類	緊急捕獲	カラス9羽 ヒヨドリ1羽				個体数の減少									
		R5	イノシシ	①有害捕獲 ②緊急捕獲	①くくりわな50基・鼻くくり2基 ②283頭				イノシシ捕獲数の増加(R3:215頭→R5:283頭)									
			タヌキ・ハクビシン・アライグマ・ヌートリア	緊急捕獲	タヌキ46頭 ハクビシン17頭 アライグマ21頭 ヌートリア4頭				捕獲により生息数の減少したことにより捕獲数が減少した。(R3:113頭→R5:88頭)									
			鳥類	緊急捕獲	カラス9羽 ヒヨドリ3羽				個体数の減少									
		R3～R5	イノシシ							1,843	5,097.0	-311.9%	2.11	2.66	39.6%			
			アライグマ							70	99.0	3.3%	0.06	0.02	300.0%			
			ヌートリア							86	8.0	305.3%	0.09	0.01	300.0%			
			ハクビシン							65	9.0	300.0%	0.03	0.00	400.0%			
			タヌキ							17	0.0	312.5%	0.02	0.00	300.0%			
			ハシブトカラスハシボソカラス							208	1,931.0	-1814.4%	0.26	0.29	22.9%			
			ヒヨドリ							175	2,009.0	-2345.3%	0.02	0.23	-950.0%			
			合計							2,464	9,153	-531.6%	2.59	3.21	24.1%			

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額(千円)			被害面積(ha)						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
長久手市鳥獣被害防止対策協議会	長久手市	R3	イノシシ	侵入防止柵	Wメッシュ柵の設置600m	協議会・地元	R4.3.11	100%	受益地区での被害面積の減少							柵の設置による有害鳥獣を入れない対策と、箱わなの設置による有害鳥獣の捕獲により、一番被害の大きいイノシシによる被害面積が目標値に達した。また、捕獲頭数についても捕獲目標を達成している項目の方が多い。そのためほぼ達成できたと評価する。	適切な対策を講ずるために、被害状況の把握は必須である。農業者へのアンケート調査等により定期的な被害状況の把握に努めて頂きたい。鳥獣害対策は①入れない、②寄せない、③捕まえる(追い払いを含む)の3本柱を粘り強く実施する必要があるため、対策を継続していただきたい。アライグマ等の中型獣については、各地で被害が拡大傾向にある。農研機構が開発した「楽落くん」などの電気さくは侵入防止効果が高いため、情報の周知・設置支援について実施して頂きたい。	イノシシの被害面積が減少している点は高く評価できる。今後必要十分量の柵を設置するなどして対策を継続していただきたい。一方で中型獣の被害は減らず、現状値(0.14ha)から横ばいであった。箱わなや電気柵の充実を図るなどして、よりいっそうの対策をお願いしたい。	
			イノシシ、ハクビシン、アライグマ、ヌートリア	緊急捕獲	イノシシ 31頭 その他獣種 8頭				捕獲頭数が着実に増え、個体数が抑制されたため、被害が緩和された。										
		R4	イノシシ	侵入防止柵	Wメッシュ柵の設置400m	協議会・地元	R5.1.31	100%	受益地区での被害面積の減少										
			イノシシ、ハクビシン、アライグマ、ヌートリア	緊急捕獲	イノシシ 41頭 その他獣種 17頭				捕獲頭数が着実に増え、個体数が抑制されたため、被害が緩和された。										
		R5	イノシシ	侵入防止柵	Wメッシュ柵の設置300m	協議会・地元	R5.12.14	100%	受益地区での被害面積の減少										
			イノシシ、ハクビシン、アライグマ、ヌートリア	緊急捕獲	イノシシ 38頭、ハクビシン 5頭、アライグマ 8頭、ヌートリア 1頭				捕獲頭数が着実に増え、個体数が抑制されたため、被害が緩和された。										
		R3～R5	イノシシ								—	6.8	—	0.40	0.33				141.2%
			アライグマ、ヌートリア、ハクビシン								—	61.5	—	0.10	0.15				—25.0%
			合計								—	68.3	—	0.50	0.48				109.5%

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
西尾市鳥獣害対策協議会	西尾市	R5	イノシシ	有害捕獲	大型箱わなの整備1基	協議会	令和5年11月	100%	導入後間もないため、十分な設置と捕獲の実績がないが、被害は緩和した。							総合的に達成できているが、被害金額や被害面積が正確に算出できず、不明として報告されている部分がある。被害の実態を把握するため、調査方法や生産者との意識の共有が必要である。被害に関して、年次変化が大きく、当初の目標値と大きくずれが生じた。イノシシの捕獲数については年々増加傾向にあるが、それを上回る被害となっており、特に稲の被害が前年に比べても増加している。	鳥獣被害防止は①環境管理(よせない)、②侵入防止(いれない)、③捕獲(つかまえる)の3本柱に取り組むことが必要である。関係住民に対して、数の刈り払い等の環境管理に対する意識啓発を実施する、侵入防止柵の設置と維持管理に対する助成するなど、被害防止に必要な取組を継続して支援していただきたい。また、被害状況の把握は必須であるため、アンケート調査時には必要な情報が集まるよう工夫していただきたい。	市独自の対策には取り組まれていたが、鳥獣交付金を活用した対策は令和5年が初年度であったということで、今後も地域事情に合わせた様々な対策を期待したい。西尾市は本県のイノシシ生息域の周縁部に位置しており、生息エリアや密度が増加していると推測される。Wメッシュ柵の導入など、捕獲以外の対策も検討をお願いしたい。
		R5	ヌートリア、ハクビシン、アライグマ	有害捕獲	小型獣用箱わなの整備1基	協議会	令和5年11月	100%	導入後間もないため、十分な設置と捕獲の実績がないが、被害は緩和した。									
		R5	イノシシ、ヌートリア、ハクビシン、アライグマ	有害捕獲	電殺器(バッテリー等含む)の整備1式	協議会	令和5年11月	100%	止め刺しが必要な場面が少なかったため不明									
		R5	イノシシ、カラス	緊急捕獲	イノシシ 14頭 カラス 72頭				個体数の増加の抑制									
		R3～R5	イノシシ							3.0	323.0	-1172.0%	0.1	0.3	35.9%			
			カラス							20,000.0	10,080.0	163.6%	5.0	0.8	3071.4%			
			合計							15,005.0	10,403.0	159.3%	5.1	1.1	837.7%			

事業実施主 体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
幸田町鳥獣 害対策協議 会		R3	イノシシ、シカ、アライグ マ、ハクビシン、カラス	緊急捕獲	イノシシ 16頭 シカ 2頭 アライグマ 7頭 ハクビシン 15頭 カラス 73羽				個体数の減少							計画にて各鳥獣事 の具体的な目標値は定め ていないが、基準値より 実績値が少なく、日頃 より行っている鳥獣対策 の効果が出ていると推 測できるため、総合的に 計画の目標達成はでき ている。	被害防止計画目標の達 成状況におけるイノシシ 被害は、大きく減少して いる。イノシシの個体 数は、CSF発生により一 時的に減少した後、各 地域で増加傾向にある。 被害についても増加す ることが想定されるた め、継続して対策が必 要である。今後も、環 境管理、侵入防止、捕 獲駆除について継続し て取り組んでいただきたい。	幸田町はイノシシを中 心にほぼすべての鳥獣 で被害を減少させるこ とができおり、高く評 価できる。また、カラス がやや低調であったが 、町独自でカラスの被 害防止方法の検討にも 取り組んでおり、今後 の状況改善も期待でき る。今後もよりいっそ うの被害防止活動に期 待したい。
		R4	イノシシ、アライグマ、 ハクビシン、カラス	緊急捕獲	イノシシ 49頭 アライグマ 3頭 ハクビシン 21頭 カラス 60羽				個体数の減少									
		R5	イノシシ、シカ、アライグ マ、カラス	緊急捕獲	イノシシ 62頭 シカ 5頭 アライグマ 1頭 カラス 20羽				個体数の減少									
		R3～R5	イノシシ							—	2,009		—	177				
		R3～R5	ニホンザル、シカ							—	0		—	0				
		R3～R5	ハクビシン、アライグマ、ヌート リア、タヌキ、アナグマ、キツネ、イ タチ(オス)							—	1,146		—	18				
		R3～R5	カラス							—	2,390		—	84				
		R3～R5	カウウ、ドバト、キジバト、ムク ドリ、ヒヨドリ、カルガモ、スズメ、キ ジ							—	582		—	10				
		R3～R5	合計							7,325	6,127	138.2%	340.0	289.0	134.9%			

事業実施主 体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
豊川市 (豊川市鳥獣 被害防止対 策協議会)	豊川 市	R3	イノシシ、シカ、サル、 ハクビシン、アライグ マ、ヌートリア、カラス	緊急捕獲	イノシシ 243頭 シカ 428頭 サル 42頭 ハクビシン 23頭 アライグマ 29頭 ヌートリア 5頭 カラス 400羽					個体数の減少						達成率が70%を超えるものはニホンザル及びカラス、カワウの被害面積であり、総合評価は「低調」とした。 中型獣の被害は前年度の1,254千円から4,528千円と大きく増加したため、農業者をはじめ地域住民に対し、市ホームページや市の広報誌を活用して小型檻の貸出しや市単独事業である電気柵の補助等周知を行う必要がある。 イノシシについては、豚熱の影響で個体数は減少していると推測されるが、尾張や西三河では経口ワクチン散布により個体数が増加しており、本市でも捕獲数が増加傾向であることから、同様に個体数が再び増えていると考えられる。 イノシシ及びニホンジカ用のワイヤーメッシュ柵について、市内の山裾にはおおよそ設置済であるが、道路や水路の隙間、イノシシ等により破壊された柵の下部が獣の出入口となることが課題である。柵の修繕については、地元駆除組織や町内会が行っているが、高齢化や人手不足により対応が遅れてしまうケースも見受けられる。被害の相談があった際には、猟友会や地元駆除組織と調整してくりわなの設置等を迅速に行うよう努めているが、くりわなに習熟した狩猟者が少なく、そのような狩猟者の高齢化も甚だ深刻であり、後進の育成が喫緊の課題である。 ニホンザルについては、捕獲檻を認識して警戒するようになっていいると考えられるため、長期間捕獲が無い檻は移設の検討が必要である。移設先の選定にあたっては、テレメトリー調査によるニホンザルの生息圏・個体数の調査成果が活用できる。また、テレメトリー調査時に装着した発信機の電波を受信することで、ある程度位置を特定することが可能であるため、サル駆除隊によるパトロールの効率化が期待される。 カラスについては、猟友会員による継続的な捕獲が実施されているが、被害の低減には繋がっていない。市単独事業の防鳥網の購入補助の周知徹底を行い、各農家の自己防衛を促すことが必要だと考える。 近年では、地元駆除組織の高齢化に伴い、組織の維持が難しくなっている地域もあり、後継者の確保が深刻な課題である。	鳥獣被害の程度は年次変化が大きく、単年度での評価が難しい面がある。豊川市は鳥獣被害対策実施隊の活動など、先駆的かつ積極的な取組をしているため、今後も継続して取り組んでいただきたい。 総合評価のとおり、捕獲の改善に努めるほか、環境管理と侵入防止についても周辺住民を巻き込んだ活動として継続して取り組んでいただきたい。特に被害が大きかった中型獣については、農研機構が開発した「楽落くん」などの電気さくの設定が侵入防止に効果があるので参考としていただきたい。	豊川市のイノシシ・サル・シカについては、低調ではあったものの、基本の3本柱に則って、対策を進められているという印象をもっている。これからもPDCAを回しながら対策を講じていただきたい。 中型獣については、県内全域で被害が増加傾向にある。電気柵の活用方法の普及などを進めていただきたい。 鳥類については、捕獲での対応は難しいので、可能な場合は侵入防止を検討していただきたい。
		R4	イノシシ、シカ、サル、 ハクビシン、アライグ マ、ヌートリア、カラス	緊急捕獲	イノシシ 283頭 シカ 352頭 サル 61頭 ハクビシン 21頭 アライグマ 40頭 ヌートリア 1頭 カラス 250羽					個体数の減少								
		R5	イノシシ、シカ、サル、 ハクビシン、アライグ マ、ヌートリア、カラス、 カワウ	緊急捕獲	イノシシ 306頭 シカ 267頭 サル 34頭 ハクビシン 22頭 アライグマ 22頭 ヌートリア 2頭 カラス 298羽 カワウ 1羽					個体数の減少								
豊川市鳥獣 被害防止対 策協議会		R3	全鳥獣	有害捕獲	狩猟免許講習費補助5名					捕獲許可者の減少抑制								
			全鳥獣	被害防除	有害鳥獣対策セミナー1回					駆除活動の活性化・効率化								
			サル・イノシシ・シカ・ア ライグマ・ハクビシン・ ヌートリア	有害捕獲	サル用捕獲檻 5基 囲いわな 1基 大型獣用捕獲檻 3基	協議会	年度末	100%	捕獲活動の活性化									
			イノシシ・シカ	侵入防止柵	Wメッシュ柵の設置2,500m	協議会	年度末	100%	対象獣の侵入抑制									
			サル	有害捕獲	テレメトリー調査個体数調査2群	協議会	年度末	100%	生息域・個体数の把握									
		R4	全鳥獣	有害捕獲	狩猟免許講習費補助4名					捕獲許可者の減少抑制								
			全鳥獣	被害防除	有害鳥獣対策セミナー1回					駆除活動の活性化・効率化・農作物被害防止								
			サル	有害捕獲	テレメトリー調査 発信機装着2頭、個 体数調査1群	協議会	年度末	100%	生息域・個体数の把握									
			サル・イノシシ・シカ・ア ライグマ・ハクビシン・ ヌートリア	有害捕獲	くりり罠 4基 大型獣用捕獲檻 3基 小型獣用捕獲檻 1基	協議会	年度末	100%	捕獲活動の活性化									
		R5	全鳥獣	有害捕獲	狩猟免許講習費補助2名					捕獲許可者の減少抑制								
			全鳥獣	有害捕獲	トレイルカメラ12台	協議会	年度末	100%	導入から間もないため被害の把握は難しいが設置後の被害は確認されていない。									
			全鳥獣	ICT等新技術 の活用	受信機2台・発信機8台	協議会	年度末	100%	導入から間もないため被害の把握は難しいが設置後の被害は確認されていない。									
			サル・イノシシ・シカ・ア ライグマ・ハクビシン・ ヌートリア	有害捕獲	くりり罠 20基 小型獣用捕獲檻 10基	協議会	年度末	100%	導入から間もないため被害の把握は難しいが設置後の被害は確認されていない。									
			サル・イノシシ・シカ・ア ライグマ・ハクビシン・ ヌートリア	捕獲サポート 体制の構築	わなの餌付け、わなの見回り、集落の 見回り 70名	協議会	年度末	100%	捕獲活動の活性化									
		R3～R5	イノシシ								4,359	4,621	65.9%	2.20	6.77	-1042.5%		
			ニホンザル								1,333	2,601	-439.6%	1.90	1.52	226.7%		
			ニホンジカ								3,241	4,254	-77.1%	3.40	7.35	-558.3%		
アライグマ ハクビシン ヌートリア									1,885	4,528	-693.7%	2.10	2.59	-22.5%				
カラス カワウ									3,763	4,355	10.8%	3.90	2.37	318.6%				
上記2鳥6獣の計									14,581	20,359	-124.6%	13.50	20.60	-195.8%				

事業実施主 体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
田原市 (田原市鳥獣 被害防止対 策協議会)	田原 市	R3	・イノシシ・ハクビシン・ アナグマ・タヌキ	緊急捕獲	・イノシシ 83頭 ・ハクビシン 15頭 ・アナグマ 7頭 ・タヌキ 4頭				有害鳥獣捕獲数の増による被害額軽減 イノシシ:R1 760千円→R5 20千円 ハクビシン:R1 740千円→R5 70千円 アナグマ:R1 110千円→R5 10千円							イノシシ、ハクビシン、アナグマについては金 額、面積ともに目標値を大きく上回る達成率で あった。 ヌートリア、鳥類については、いずれの目標も 低調であった。ヌートリアについては、近年、生 息域及び生息数について著しく増加していると の報告もあり、捕獲数の増加にもかかわらず被害 が増加している。また、鳥類については、市 内において一番規模の大きい被害を及ぼしてい るが、効果的な被害防除方法が確立・普及し ておらず、被害対策に難航している状況であ る。 鳥類被害を減らしていくことが目標達成には 必要不可欠であり、地域と協力して被害対策を 検討していくことが今後の課題である。	目標値を達成した獣種につ いて、今後も継続して被害防 止に取り組んでいただきたい。 ヌートリア・カラスについても 継続した対策が必要である が、決定打となる手法が無 い。地道な取組となるが、餌と なる作物の除去や藪の刈り払 い等の環境管理、電気さくや テグスを使用した侵入防止に ついて、周辺住民とともに継続 して取り組んでいただきたい。	イノシシについては、緊急捕 獲で積極的に対策を実施され ており、成果も出ているため 高く評価できる。中型獣につ いても、捕獲や電気柵の補助 (市費事業)に取り組まれてお り、おおむね成果をあげてい ることから評価できる。しか し、鳥類で被害を抑えることが できなかった。田原市は鳥類 の比率が高いため、全体とし て低調になってしまい、残念 に思う。 露地野菜の鳥対策では、特 効薬となる対処方法は存在し ない。生息環境管理などを通 じて被害軽減に努めてもら いたい。
		R4	・イノシシ・ハクビシン・ アナグマ・タヌキ	緊急捕獲	・イノシシ 136頭 ・ハクビシン 10頭 ・アナグマ 4頭 ・タヌキ 4頭				有害鳥獣捕獲数の増による被害額軽減 イノシシ:R1 760千円→R5 20千円 ハクビシン:R1 740千円→R5 70千円 アナグマ:R1 110千円→R5 10千円									
		R5	・イノシシ・ハクビシン・ アライグマ・ヌートリア・ アナグマ・タヌキ・カラス	緊急捕獲	・イノシシ 357頭 ・ハクビシン 42頭 ・アライグマ 4頭 ・ヌートリア 11頭 ・アナグマ 35頭 ・タヌキ 24頭 ・カラス 1羽				有害鳥獣捕獲数の増による被害額軽減 イノシシ:R1 760千円→R5 20千円 ハクビシン:R1 740千円→R5 70千円 アナグマ:R1 110千円→R5 10千円									
		R3～R5	イノシシ							530	20	321.7%	0.31	0.10	250.0%			
			ハクビシン							520	70	304.5%	2.77	0.58	284.0%			
			アナグマ							80	10	333.3%	3.53	1.00	266.4%			
			タヌキ							10	0	-	0.02	0.00	300.0%			
			ヌートリア							40	90	-400.0%	0.70	1.55	-183.3%			
			アライグマ							0	0	-	0.00	0.00	-			
			ハシボソカラス、ハシブトカラス							16,100	21,000	29.0%	29.40	44.00	-15.9%			
			ヒヨドリ							7,000	9,400	20.0%	12.60	20.00	-37.0%			
			カワウ、ゴイサギ、コサギ、ダイサギ							1,470	0	333.3%	-	-	-			
		合計							25,750	30,590	56.1%	49.33	67.23	15.4%				

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
瀬戸市鳥獣害対策連絡協議会	瀬戸市	R2	①イノシシ ②イノシシ・ニホンジカ ③イノシシ・ニホンジカ ④イノシシ・ニホンジカ ⑤イノシシ・ニホンジカ	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③緊急捕獲 ④鳥獣害防止施設 ⑤有害捕獲	①箱わな1基 ②くくりわな20基 ③イノシシ255頭、シカ1頭 ④電気柵180cm L=513m ⑤狩猟免許講習費補助3名	協議会	④R2	④電気柵100%	①捕獲数の増加(R2:255頭⇒R4:281頭) ②捕獲数の増加(R2:255頭⇒R4:281頭) ③有害鳥獣の捕獲により被害防止に貢献 ④設置地区における捕獲頭数の増加(R1:7頭⇒R2:16頭) ⑤実施隊へ3人加入(R2⇒R4)							イノシシについて、捕獲頭数は令和2年度から増加した令和4年度の299頭よりもさらに増加し、令和5年度は312頭となった。捕獲頭数の増加だけでなく、目撃件数、被害相談の増加が見られ、全体的な生息数の増加と分布の拡大が推察できるが、侵入防止柵の設置等、整備事業を活用した対策を継続した。令和5年度は、整備事業として4地区で電気柵の設置を行った。電気柵の効果は、設置後の維持管理が重要であるため、柵の設置状況確認等に力を入れていきたい。 ニホンジカについては、捕獲頭数や目撃頭数が増加している。目標策定時にはほぼ見られなかったが、ここ数年で生息数や分布が拡大していることが予測され、生息数の増加が被害拡大の主要な原因だと推測する。令和5年度に電気柵を設置した山間部(上半田地区)では、ニホンジカ用の侵入防止柵の整備を実施した。また、捕獲に効果的なくくりわなの導入基数を増やす予定である。 前述のように、令和5年度の評価報告に基づき事業を実施したが、目標達成率は70%未満であり、低調と評価する。侵入防止対策、獣種に合わせた捕獲活動を継続することで、目標達成を目指すしたい。	イノシシについては、CSFで個体数が一時的に減少したが、その後に個体数が回復し、被害も増加していると考えられる。継続して被害防止に取り組んでいただきたい。 シカについては、総合評価にあるように目標設定時よりも生息数・区域が増大していると考えられる。早急に侵入防止柵を設置する必要がある。さらに、イノシシ用の対策ではシカに効果が無い(柵の高さが低い)事があるため、侵入防止柵の設置状況についても確認しながら対策を進めていただきたい。 侵入防止柵は設置後のメンテナンス(見回り・修繕)が必須であるため、周辺住民を巻き込んだ形で侵入防止に取り組む、継続して対策を実施していただきたい。	再評価の結果、再度低調であったことは残念に思う。しかし、昨年度の評価でも記載したが、瀬戸市はイノシシやシカの拡大の最前線にあることから、当初の目標値が低すぎたことが低調の最大の要因であると思われる。詳細な現状把握とそれに基づく計画の作成をお願いしたい。 ほぼイノシシしかいなかった地域にシカが侵入し始めた事例は少なくないので、豊田市や岡崎市などを参考に、先手先手で対策を進めてほしい。
		R3	①イノシシ ②イノシシ・ニホンジカ ③イノシシ・ニホンジカ ④イノシシ・ニホンジカ ⑤イノシシ・ニホンジカ ⑥イノシシ・ニホンジカ	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③有害捕獲 ④ICT等新技術の活用 ⑤緊急捕獲 ⑥有害捕獲	①箱わな4基 ②くくりわな20基 ③電気止め刺し器3基等 ④センサーユニット1基 ⑤イノシシ236頭・ニホンジカ12頭 ⑥狩猟免許講習費補助2名				①捕獲数の増加(R2:255頭⇒R4:281頭) ②捕獲数の増加(R2:255頭⇒R4:281頭) ③安全かつ効率的な止め刺し作業に寄与 ④捕獲数の増加(R2:255頭⇒R4:281頭) ⑤有害鳥獣の捕獲により被害防止に貢献 ⑥実施隊へ3人加入(R2⇒R4)									
		R4	①イノシシ・ニホンジカ ②イノシシ・ニホンジカ ③イノシシ・ニホンジカ ④イノシシ・ニホンジカ ⑤イノシシ・ニホンジカ ⑥イノシシ・ニホンジカ	①有害捕獲 ②緊急捕獲 ③鳥獣害防止施設 ④鳥獣害防止施設 ⑤鳥獣害防止施設 ⑥有害捕獲	①くくりわな20基 ②イノシシ281頭・ニホンジカ9頭 ③WM柵180cm L=730m ④電気柵5段 L=740m ⑤電気柵3段 L=390m ⑥狩猟免許講習費補助5名	協議会	③④⑤R4	③④⑤100%	①捕獲数の増加(R2:255頭⇒R4:281頭) ②有害鳥獣の捕獲により被害防止に貢献 ③受益地区における被害金額(988千円⇒0千円) ④受益地区における被害金額(315千円⇒0千円) ⑤受益地区における被害金額(60千円⇒0千円) ⑥実施隊へ3人加入(R2⇒R4)									
		R5	①イノシシ・ニホンジカ ②イノシシ・ニホンジカ ③イノシシ ④イノシシ・ニホンジカ ⑤イノシシ ⑥イノシシ ⑦イノシシ・ニホンジカ ⑧イノシシ・ニホンジカ ⑨イノシシ・ニホンジカ ⑩イノシシ・ニホンジカ	①緊急捕獲 ②有害捕獲 ③④⑤⑥⑦侵入防止柵 ⑧ICT等新技術の活用 ⑨誘導捕獲 ⑩有害捕獲	①イノシシ・シカ ②くりわな20基 ③箱わなの導入2基 ④電気柵の設置(上半田川地区)5段×1,630m ⑤電気柵の設置(鳥原地区)3段×4,200m ⑥電気柵の設置(窯地区)3段×382m ⑦電気柵の設置(上半田川地区)5段×250m ⑧ICTセンサーカメラの導入2基 ⑨電気止め刺し器の導入1基 ⑩狩猟免許講習費補助6名	協議会	②R5.7月末 ③R5.12月末 ④R6.2月末 ⑤R6.2月末 ⑥R6.2月末 ⑦R6.2月末 ⑧R6.1月末 ⑨R5.7月末	②③④⑤⑥⑦⑧⑨100%	①捕獲実績 イノシシ:312頭 ニホンジカ:14頭 ②捕獲数の増加(R4:281頭⇒R5:312頭) ③捕獲数の増加(R4:281頭⇒R5:312頭) ④該当地区での捕獲数増加(R4:10頭⇒R5:14頭) ⑤受益地区での被害なし ⑥受益地区での被害なし ⑦該当地区での捕獲数増加(R4:10頭⇒R5:14頭) ⑧捕獲数の増加(R4:281頭⇒R5:312頭) ⑨安全かつ効率的な止め刺し作業に寄与 ⑩実施隊員候補者の増加									
		R2～R5	イノシシ							1,106	1,861	-58.9%	1.8	4.1	-205.3%			
			ニホンジカ							12	433	-6916.7%	0.0	0.1	-1100.0%			
合計								1,118	2,294	-144.5%	1.8	4.2	-216.9%					

事業実施主 体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額(千円)			被害面積(ha)						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
日進市鳥獣 被害防止対 策協議会	日進 市	R2	①イノシシ、アライグ マ、ハクビシン、ヌートリ ア ②アライグマ、ハクビシ ン	①有害捕獲 ②緊急捕獲	①捕獲檻の設置 7基、捕獲通知セン サーの設置 計5台 ②アライグマ2頭、ハクビシン3頭				①有害鳥獣の捕獲数増加と効率化が図れた ②有害鳥獣の捕獲により被害の軽減							被害金額については被害防止計画に目標値 の記載がないため達成率の計算が行えず、被害 面積についても達成できたのがヌートリアの みであり、イノシシにおいては達成率を大きく下 回る結果となった。 捕獲数自体は昨年度と比べ増加しており、成 獣の捕獲についても増加傾向にあるが、年々 の生息数も増加していることや柵の設置などの 被害防止対策が農業者任せになっている現状 が目標未達成の要因といえる。	鳥獣被害防止は①環境管理 (よせない)、②侵入防止(い れなない)、③捕獲(つかまえる) の3本柱に取り組むことが必 要である。関係住民に対して、 数の刈り払い等の環境管理に 対する意識啓発を実施する、 侵入防止柵の設置と維持管 理に対する助成するなど、被害 防止に必要な取組を継続し て支援していただきたい。ま た、被害状況の把握は必須で あるため、アンケート調査時 には必要な情報が集まるよう 工夫していただきたい。近年、ア ライグマ等の中型獣被害が各 地で増加傾向にあり、その侵 入防止には農研機構が開発し た「楽落くん」等の電気さく の設置が有効であるため、参考 としていただきたい。	再評価の結果、ヌートリア以 外の獣種で目標を達成できな かったことは残念に思う。 日進市はイノシシ拡大の最 前線にあり、計画策定時より 生息範囲が広がったことが、 低調の大きな要因であると推 測される。捕獲檻を増加させ て捕獲数を増やすことには成 功しているが、必要に応じてさ らにわなの数を増やしたり、 侵入防止柵を設置したりする などして対策を講じてほしい。	
			R3	①アライグマ、ハクビシ ン	緊急捕獲	アライグマ5頭、ハクビシン3頭				有害鳥獣の捕獲により被害の軽減									
		R4	①ハクビシン	緊急捕獲	ハクビシン3頭				有害鳥獣の捕獲により被害の軽減										
		R5	アライグマ、ハクビシ ン	緊急捕獲	アライグマ 2頭 ハクビシン 2頭				個体数の減少										
		R2～R5		イノシシ								691	—	0.4	1.4				-537.5%
アライグマ										80	—	0.3	0.4	0.0%					
ハクビシン										199	—	0.1	0.1	-100.0%					
ヌートリア										9	—	0.1	0.0	333.3%					
上記4獣の計										979	—	0.8	1.9	-233.3%					

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
新城・北設広域鳥獣害対策協議会	新城市	R2	①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④イノシシ・ニホンジカ・サル ⑤その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③侵入防止柵 ④緊急捕獲 ⑤緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助8名 トリガー7台 ②くくり罠30基、箱罠(大)7基 ③WM柵5,696m ④イノシシ317頭、ニホンジカ1,104頭、サル109頭 ⑤その他獣類462頭、その他鳥類175羽	③協議会(新城市)	R3.3	③侵入防止柵100%	①新城市において、8名の狩猟免許保持者の増加 ②捕獲数の増加(R2:1,530頭→R4:2,187頭) ③侵入防止柵の設置により被害を防げている。 ④捕獲数の増加(R2:1,530頭→R4:2,187頭) ⑤継続的な捕獲(R2:462頭→R4:455頭、R2:175羽→R4:70羽)							イノシシの被害軽減は達成したものの、ニホンザルは微減に留まり、ニホンジカおよびその他鳥獣の被害が増加し、目標達成に至らなかった。ニホンジカの捕獲数が増加しているが、生息頭数も増加しており被害が増加したと思われる。また、大型獣の被害対策が主のため、ワイヤーメッシュ柵の設置では被害軽減につながらない中型獣や鳥類の被害が抑えられなかった。	目標値を達成していない項目もあることから、継続して被害防止を支援していただきたい。ニホンザルは、捕獲だけでなく侵入防止にも注力する必要がある。おじろ用心棒等の効果的な電気さくがあるため、情報の周知・設置支援等を実施していただきたい。その他鳥類の被害が大きいのが、カラスの場合は農研機構が開発・公表しているテグス「くぐれんテグスちゃん」等の効果的な侵入防止対策があるため、情報の周知及び設置支援を継続して実施していただきたい。	4市町村の広域協議会という形で面積が広大、かつ、過疎地域が多いという不利な条件のなか、鳥獣被害対策を実施しており、一筋縄ではないことは十分理解できる。イノシシ・ニホンジカの捕獲は順調に進んでおり、目標は達成しなかったが被害状況も軽減しており評価できる。しかし、全県的にはニホンジカの生息域が広がり、依然、個体数が多い状況なので、今後も継続して、侵入防止柵で行動制限しつつ捕獲を推進してほしい。
		R3	①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル、ハクビシン等 ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④イノシシ・ニホンジカ・サル ⑤その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③侵入防止柵 ④緊急捕獲 ⑤緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助6名 ②くくり罠20基、箱罠大8基、箱罠小5基 ③WM柵4,583m ④イノシシ445頭、ニホンジカ1,286頭、サル79頭 ⑤その他獣類427頭、その他鳥類170羽	③協議会(新城市)	R4.3	③侵入防止柵100%	①新城市、東栄町、豊根村全体で6名の狩猟免許保持者の増加 ②捕獲数の増加(R2:1,530頭→R4:2,187頭) ③侵入防止柵の設置により被害を防げている。 ④捕獲数の増加(R2:1,530頭→R4:2,187頭) ⑤継続的な捕獲(R2:462頭→R4:455頭、R2:175羽→R4:70羽)							イノシシについては、侵入防止柵の整備により被害軽減できた。高齢化により捕獲者が減少しているが、捕獲数は増加しており、被害対策が進んでいる。 ニホンジカについても捕獲頭数は増えているが、被害面積は増え、被害金額も増加した。捕獲者を増やすとともに、有害鳥獣捕獲における狩猟免許を有しない従事者容認事業(環境省事業)により、地域ぐるみの対策の底上げを図る。		山間地では、鳥獣被害は被害金額以上に、農業者の意欲減衰の影響が大きく、離農の原因となることが多い。耕作放棄地が増えることで、鳥獣の生息数や被害が増えるため、4市町村での連携の強化を期待したい。
		R4	①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④イノシシ・ニホンジカ・サル ⑤その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③侵入防止柵 ④緊急捕獲 ⑤緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助9名 ②くくり罠10基、センサーカメラ1基、箱罠用センサー1組 ③WM柵9,742m ④イノシシ706頭、ニホンジカ1,312頭、サル169頭 ⑤その他獣類455頭、その他鳥類70羽	③協議会(新城市)	R5.3	③侵入防止柵100%	①4市町村全体で9名の狩猟免許保持者の増加 ②捕獲数の増加(R2:1,530頭→R4:2,187頭) ③侵入防止柵の設置により被害を防げている。 ④捕獲数の増加(R2:1,530頭→R4:2,187頭) ⑤継続的な捕獲(R2:462頭→R4:455頭、R2:175羽→R4:70羽)							ニホンザルについては、現状値より減少しているが、目標値には至らなかった。捕獲により群れの規模を管理し、被害を軽減しているほか、「おじろ用心棒」で防御する集落もある。 その他鳥についての達成率は著しく低調であるが、他鳥獣に比べて積極的に捕獲する者がいない状況であり、この傾向は今後も続くと考えられる。狩猟免許所持者を増やすことで対策するとともに、特に果樹被害が大きいため、生産者に防護ネット、テグス等による対策を啓発していく。		
		R5	①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他獣類・アオサギ・カワウ・その他鳥類	①有害捕獲 ②侵入防止柵 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲	①くくり罠16基 ②WM柵7,468m ③イノシシ520頭、ニホンジカ1,281頭、サル137頭 ④その他獣類390頭、アオサギ25羽、カワウ0羽、その他鳥類62羽	②協議会(新城市)	R6.3	②侵入防止柵100%	①捕獲数の増加(R2:1,530頭→R5:1,938頭) ②侵入防止柵の設置により被害を防げている。 ③捕獲数の増加(R2:1,530頭→R5:1,938頭) ④継続的な捕獲(R2:637頭羽→R5:477頭羽)									
		設楽町	R2	①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他鳥獣	①有害捕獲 ②侵入防止柵 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲	①くくり罠47基 ②WM柵2,000m ③イノシシ82頭、ニホンジカ904頭、サル8頭 ④その他獣類76頭、その他鳥類10羽	②協議会(設楽町)	R3.3	②侵入防止柵100%	①捕獲計画数を下回ったが個体数減少にある程度成果があったと思われる。 ②WM柵設置により該当地域の被害は減少した ③捕獲計画数を下回ったが個体数減少にある程度成果があったと思われる。 ④獣類は捕獲計画数を下回ったが個体数減少にある程度成果があったと思われる。鳥類は捕獲が進まず個体減少に成果がなかったと思われる。								
	R3		①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他鳥獣 ⑤その他獣類	①有害捕獲 ②侵入防止柵 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲 ⑤有害捕獲	①くくり罠80基、箱罠(大)5基 ②WM柵810m ③イノシシ83頭、ニホンジカ970頭、サル10頭 ④その他獣類46頭、その他鳥類0羽 ⑤箱罠(小)10基	②協議会(設楽町)	R4.3	②侵入防止柵100%	①捕獲計画数を上回り個体数減少に成果があったと思われる。 ②WM柵設置により該当地域の被害は減少した ③捕獲計画数を上回り個体数減少に成果があったと思われる。 ④獣類は捕獲計画数を下回ったが個体数減少にある程度成果があったと思われる。鳥類は捕獲が進まず個体減少に成果がなかったと思われる。 ⑤捕獲計画数を下回ったが個体数減少にある程度成果があったと思われる。									
	R4		①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助9名 ②くくり罠60基、箱罠(大)4基 ③イノシシ227頭、ニホンジカ1,157頭、サル15頭 ④その他獣類92頭、その他鳥類2羽				①4市町村全体で9名の狩猟免許保持者の増加 ②捕獲計画数を大幅に上回り個体数減少に大きな成果があったと思われる。 ③捕獲計画数を大幅に上回り個体数減少に大きな成果があったと思われる。 ④獣類はほぼ捕獲計画数であり個体数減少に成果があったと思われる。鳥類は捕獲が進まず個体減少に成果がなかったと思われる。									

		R5	①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③その他獣類・アオサギ・カワウ・その他鳥類	①有害捕獲 ②緊急捕獲 ③緊急捕獲	①くくり罠50基、箱罠(大)2基 ②イノシシ138頭、ニホンジカ1,178頭、サル6頭 ③その他獣類98頭、アオサギ1羽、カワウ2羽、その他鳥類72羽				①捕獲計画数を大幅に上回り個体数減少に大きな成果があったと思われる。 ②捕獲計画数を大幅に上回り個体数減少に大きな成果があったと思われる。 ③獣類はほぼ捕獲計画数であり個体数減少に成果があったと思われる。鳥類は捕獲が進まず個体減少に成果がなかったと思われる。						
対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						
									被害金額(千円)			被害面積(ha)			
									目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	
東栄町	R2	①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③その他鳥獣	①有害捕獲 ②緊急捕獲 ③緊急捕獲	①くくり罠47基 ②イノシシ24頭、ニホンジカ453頭、サル14頭 ③その他獣類105頭、その他鳥類125羽				①計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ②計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ③計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。							
		①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助6名 ②くくり罠50基 ③イノシシ36頭、ニホンジカ507頭、サル12頭 ④その他獣類86頭、その他鳥類65羽				①新城市、東栄町、豊根村全体で6名の狩猟免許保持者の増加 ②捕獲数の一部は計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ③計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ④計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。							
		①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助9名 ②くくり罠50基、センサーカメラ1基 ③イノシシ59頭、ニホンジカ589頭、サル38頭 ④その他獣類106頭、その他鳥類65羽				①4市町村全体で9名の狩猟免許保持者の増加 ②捕獲数の一部は計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ③計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ④計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。							
		①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③その他獣類・アオサギ・カワウ・その他鳥類	①有害捕獲 ②緊急捕獲 ③緊急捕獲	①くくり罠50基、箱罠(小)2基 ②イノシシ27頭、ニホンジカ457頭、サル19頭 ③その他獣類65頭、アオサギ20羽、カワウ58羽、その他鳥類2羽				①捕獲数の一部は計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ②計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。 ③計画の捕獲数には及ばないが個体数調整に一定の効果ありと考える。							
豊根村	R2	①イノシシ・ニホンジカ・サル ②その他鳥獣	①緊急捕獲 ②緊急捕獲	①イノシシ24頭、ニホンジカ735頭、サル40頭 ②その他獣類95頭、その他鳥類32羽				①捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。 ②捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。							
		①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ②その他鳥獣	①有害捕獲 ②緊急捕獲 ③緊急捕獲	①くくり罠107基、サル用囲い罠1基 ②イノシシ16頭、ニホンジカ594頭、サル16頭 ③その他獣類72頭、その他鳥類29羽				①くくりわなやサル用囲い罠は農地用として貸し出しし成果は出ている。 ②捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。 ③捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。							
		①全鳥獣 ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③イノシシ・ニホンジカ・サル ④その他鳥獣	①有害捕獲 ②有害捕獲 ③緊急捕獲 ④緊急捕獲	①狩猟免許講習費補助9名 ②くくり罠20基 ③イノシシ31頭、ニホンジカ456頭、サル22頭 ④その他獣類62頭、その他鳥類39羽				①4市町村全体で9名の狩猟免許保持者の増加 ②くくりわなはR5年度で農地用として貸し出しし成果は出ている。 ③捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。 ④捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。							
		①イノシシ・ニホンジカ・サル ②イノシシ・ニホンジカ・サル ③その他獣類・アオサギ・カワウ・その他鳥類	①有害捕獲 ②緊急捕獲 ③緊急捕獲	①くくり罠20基、サル用ワナ2基 ②イノシシ28頭、ニホンジカ585頭、サル22頭 ③その他獣類48頭、アオサギ7羽、カワウ10羽、その他鳥類28羽				①くくりわなはR6年度で農地用として貸し出しし成果は出ている。 ②捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。 ③捕獲計画よりは下回ったが、成果は出ている。							
全域	R5(全域)	①全鳥獣	①有害捕獲	①狩猟免許講習費補助7名				①4市町村全体で7名の狩猟免許保持者の増加							
		R2～R5	イノシシ						3,713	3,008	144.3%	5.30	6.23	59.5%	
			ニホンジカ						7,062	11,855	-58.3%	9.10	36.58	-604.6%	
			ニホンザル						2,622	3,349	35.3%	4.30	6.49	-21.4%	
			その他獣						3,794	5,116	18.7%	6.90	18.35	-294.7%	
			アオサギ・カワウ						1,816	110	319.3%	—	—	—	
			その他鳥						1,401	2,589	-97.7%	1.70	4.92	-359.6%	
			合計						20,408	26,028	35.7%	27.3	72.6	-290.2%	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
愛知県	全域	R5	鳥類 中型獣類 ニホンジカ	新技術実証・普及活動	○試験研究・普及指導活動 普及指導員及び試験場職員による継続的な被害状況の確認及び実証試験の実施	愛知県 (農業総合試験場)			普及指導員が農業者とともに被害防止のための実証試験を行うことで、農業者に「気づき」を与え、地域での被害防止活動に積極的かつ効果的に取り組めるよう指導することができた。また、試験場で中型獣(アライグマ)の捕獲について検討を進めることができた。							普及課において現地実証試験を行い、地域の実情に即した形での被害防止策を進めた。農業者と共に実証することで、農業者自身に被害対策に対する「気づき」を促し、今後の被害対策に意欲的かつ効果的に取り組む意識づけを行うことが出来た。 農業蔵合試験場において、アライグマの捕獲の問題点を確認した。		
	全域	R5	全鳥獣種	人材育成活動	○試験研究・普及指導活動 普及指導員及び試験場職員に対する講習・研修の実施及び農業者への指導	愛知県 (農業総合試験場)			鳥獣被害対策の基礎的な知識を習得させるとともに、指導的立場として効果的な支援に取り組める技術を身につけた。また、農業者に直接指導し、実践的な被害防止の取組に資した。							鳥獣被害対策を担う普及指導員、試験場職員の知識、技能を高め、効果的な指導につなげることが出来た。また、農業者に指導をすることで、現場での効果的な対策実施につながった。		
	豊田市・新城市	R5	全鳥獣種	人材育成活動	○捕獲技術強化モデルケース育成事業 主体的に対策を実践できるモデルケース的な集落の育成を目指す	愛知県(野生イノシシ対策室)			地域ぐるみ対策のモデルケース育成を目指す普及指導計画の一環として、豊田市大野瀬町梨野地区と新城市作手保永和田地区の2地域において、地域の農業者を対象とした研修活動を各地区5～6回実施し、総合対策及び捕獲技術向上を図った。							委託したプロの猟師の目線で集落点検や生息調査を行うことで、地域からの対策案の立案などの考えが生まれ、住民全体の鳥獣被害意識が高まった。		
	全域	R5	イノシシ・ニホンジカ	ジビエ利用拡大	○ジビエ消費拡大のための取組 消費拡大イベントの開催 イベントへのブース出店	愛知県 (農村対策G)			消費者のジビエ利用を推進し、ジビエを取り扱う店舗を拡大するため、参加店舗を募集し集客につながる企画を開催の上、2022年度に開発したシカ肉の新商品を試食等によりPRした。 また、県内で開催されるイベントにブース出店し、愛知産ジビエを使った商品を販売することにより、ジビエの消費拡大を図った。 1 消費拡大イベントの開催 飲食店でシカ肉を使った新商品の試食を実施 参加店舗:5店舗 開催日:2/9-2/25(店舗による) 試食数:計262食 2 イベントへのブース出店 ジビエ商品の販売、愛知産ジビエの紹介ポスター掲示、チラシ・パンフレット・事業者チラシの配布 ・ふるさとイッソー祭2023、名古屋市、10/28-29 ・あぐりん村、長久手市、11/11 ・げんきの郷、大府市、11/19 ・ビビッと！あいち、名古屋市、1/30						消費拡大イベントの開催及びイベントへブース出店し、ジビエ商品の試食・販売やポスター掲示等をしたことにより、ジビエの消費拡大を図り、消費者にジビエを知ってもらうことができた。			

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

愛知県では、イノシシ及びニホンジカの侵入防止柵の整備により、着実に被害軽減が進んでいるが、近年のニホンジカの生息域の拡大により、イノシシ対策のみ実施地区でシカ被害が発生し、柵のかさ上げ等追加の対策が必要となっている。また、主に園芸作物における中型獣及び鳥類の被害が年々深刻化しているにも関わらず、有効な対策が実施されていない。今後はこれらの鳥獣の特性と有効な対策手法についての農業者の理解を促し、対策の強化を図る必要がある。課題はあるものの、各地域の取組は進んできており、今後は持続性を確保するとともに、活動強化に向けた合意形成が課題である。
各市町村の被害防止計画の評価指標としては被害金額、被害面積が取り上げられ、3年間で20～30%程度減少させる目標設定とされている。しかし、動物の生息範囲が拡大している市町については、かなり厳しい目標となってしまった。また、指標が被害面積のみや被害金額のみとした場合、年次変動の影響を受けやすいため、今後、被害防止計画を更新する際は、複数の指標を設けることを提案する。
一部の市町村では、農業者による被害防除組合や捕獲補助制度などの人材育成活動、モニタリングと群管理によるサル対策など、先進的で優良な取組が実現しているが、被害防止計画の評価指標には反映されていない。しかし、そういった取り組みも、継続していきたい。